

所属 創造表現学部	職名 講師	氏名 松田 樹	学位 博士（文学）	兼任している研究科 無し	
研究分野 文学、言語学およびその関連分野		研究分野のキーワード 日本文学一般、日本近代文学、日本現代文学			
学歴					
2015年03月	神戸大学 文学部 人文学科 卒業				
2017年03月	神戸大学 人文学研究科 文化構造専攻 博士前期課程 修了				
2022年03月	神戸大学 人文学研究科 文化構造専攻 博士後期課程 修了				
職歴					
2017年04月	日本学術振興会 特別研究員 DC1（2020年3月まで）				
2020年04月	京都芸術高等学校 非常勤講師（2021年3月まで）				
2021年04月	追手門学院大学 非常勤講師（2023年3月まで）				
2021年04月	京都精華大学 非常勤講師（2023年3月まで）				
2022年04月	神戸大学 人文学研究科 研究員（2023年3月まで）				
2022年09月	神戸市外国語大学 非常勤講師（2023年3月まで）				
2023年04月	愛知淑徳大学創造表現学部 助教（2024年3月まで）				
2024年04月	愛知淑徳大学創造表現学部 講師（現在に至る）				
研究活動					
著書(CD・DVD等を含む)・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当箇所・該当頁数
著書(CD・DVD等を含む)					
高等学校指導書『標準言語文化』第一分冊	共著	2022年03月	第一学習社	第一学習社責任編集	179頁～227頁
高等学校指導書『文学国語』第三分冊	共著	2023年03月	第一学習社	第一学習社責任編集	186頁～232頁, 2頁～58頁, 59頁～111頁
批評の歩き方	共著	2024年11月	人文書院	【責任編集】松田樹・赤井浩太【論考】小峰ひずみ・韻踏み夫・森脇透青・住本麻子・七草蘭子・後藤護・武久真士・平坂純一・渡辺健一郎・前田龍之祐・安井海洋・角野桃花・古木獠・石橋直樹・岡田基生・松本航佑・つやちゃん・鈴木亘・長瀨よし野	共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
いま批評は存在できるのか	共著	2025年05月	ゲンロン	松田樹・三宅香帆・森脇透青・大澤聡・東 浩紀・植田将暉	共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
高等学校指導書『改訂版標準現代の国語』	共著	2026年03月	第一学習社	第一学習社責任編集	共同執筆につき本人担当部分抽出不可能
学術論文					
中上健次作品研究——「政治と文学」の終わりから「近代文学の終り」まで	単著	2022年03月	神戸大学 神戸大学博士論文		1頁～171頁
「政治と文学」再考——ケーススタディ・井上光晴と大西巨人	単著	2022年03月	神戸大学国語国文学会 国文論叢 59		65頁～82頁
たった一つの、私のものではない「日本語」——ジャック・デリダ、中上健次、『批評空間』——	単著	2024年03月	脱構築研究会 Supplements 特集・いま、国家の脱構築？——デリダ、レヴィナス、中上健次と「国民国家」3		53頁～68頁
私小説の更新・ゼロ年代以降の私小説——西村賢太から金原ひとみまで	単著	2024年08月	紋説 紋説 特集・文学の前線 第 2 期		28頁～35頁
変態（クィア）へと変態（メタモルフォーゼ）せよ——熊野大学の浅田彰	共著	2024年11月	新潮社 新潮	松田樹・森脇透青	239頁～245頁

「中上健次」以後——雑誌『批評空間』（一九九一～二〇〇二）における水村美苗・多和田葉子・阿部和重	単著	2025年03月	昭和文学会 昭和文学研究 90		65頁～81頁
記憶喪失にあらがって——中上健次『千年の愉楽』	単著	2025年05月	ゲンロン ゲンロン18 18		146頁～150頁
「小説家」の差別論——中上健次『紀州 木の国・根の国物語』を中心に	単著	2026年03月	社会文学会 社会文学 63		185頁～200頁
学会発表					
批評／空間のほぐしかた	共同発表	2023年01月	京都出町座ワークショップ(京都出町座内cavabooks)		
日本語文学における「他者の単一言語使用」——中上健次と現代作家たちの場合	単独発表	2023年03月	シンポジウム「いま、国家の脱構築？——デリダ、レヴィナス、中上健次と「国民国家」」(京都大学)		
「読むこと」から「書くこと」へ——大学で創作を教えるとはどういうことか	単独発表	2023年10月	神戸大学ホームカミングデー講演 (神戸大学)		
FRIDAY NIGHT ESSAY CLUB ——書くこと で日常を見つめ直すワークショップ	共同発表	2024年04月	代官山蔦屋書店ワークショップ(代官山蔦屋書店)		
九〇年前後、未了の日本文学——冷戦体制とグローバリズムのはざままで	共同発表	2024年05月	日本近代文学会(駒澤大学)		
2025年に批評は存在できるのか？——90年代生まれが見透す「これから」の論壇	共同発表	2025年01月	ゲンロンカフェ(ゲンロンカフェ)		
「表現」は教育になりうるか——創作指導と国語教育	単独発表	2025年05月	愛知県私学国語科研究会(愛知淑徳大学・星ヶ丘キャンパス)		
言葉と映像——「フレーム」をどう作るか	共同発表	2025年05月	美術展「コート・オブ・ジャスティス」オープニングトーク(アートスペース229)		
「書くこと」の教育的可能性——高一教材・佐藤信夫「コインは円形か」を例として	単独発表	2025年06月	2025年度国語教員対象講演会(神戸大学附属中等教育学校)		
愛と重力——中上健次『讃歌』『軽蔑』における新宿性風俗	単独発表	2025年12月	近代文学合同研究会(新宿文化センター)		
レトリックと異化	単独発表	2026年02月	神戸大学附属中等教育学校 国語科授業研究会(神戸大学附属中等教育学校)		
戦後史を巻き戻す——中上健次と津島佑子の後期作品	単独発表	2026年03月	日本近代文学会・東海支部(愛知淑徳大学・星ヶ丘キャンパス)		
ロック・ファック・ドラッグ——中上健次『水の女』から村上龍『トバーズ』へ	単独発表	2026年05月	日本近代文学会 特集＝アディクションを書く(法政大学)		
地図と足——文芸批評とこの世界の捉え方	単独発表	2026年05月	金城学院大学 日本語日本文化学会春季大会(金城学院大学)		
作品・制作等					
批評誌『近代体操』創刊号	共同	2022年11月		松田樹・左藤青・古木凌・安永光希・草乃羊	主宰、運営、編集
出版社・人文書院企画「じんぶんのしんじん」企画運営	共同	2023年04月		松田樹・赤井浩太・袴田渥美	主宰、運営、編集
批評誌『近代体操』2号	共同	2024年12月		松田樹・森脇透青・武久真士・古木獠・安永光希	運営、主宰、編集
『週刊読書人』文芸時評の連載	単独	2026年01月			『週刊読書人』文芸時評の連載（1年間）
その他業績					
（科研費）日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 中上健次作品	単独	2022年08月	日本学術振興会		科学研究費補助金

におけるアジア志向の再検討——韓国との文化交流を中心に					
（インタビュー）藤村龍至インタビュー——郊外をアップデートせよ！	共同	2022年11月	近代体操創刊号	松田樹・左藤青・古木凌	15頁～36頁
（論考）村上春樹の「移動」と「風景」	単独	2022年11月	近代体操創刊号		38頁～55頁
（書評）渡邊英理『中上健次論』	単独	2023年05月	日本近代文学 108号		163頁～166頁
（論考）あいまいな批評家の私——柄谷行人	単独	2023年06月	「じんぶんの新人」人文書院		人文書院PR note
（書評）高橋幸平・久保昭博・日高佳紀編『小説のフィクショナル리티理論で読み直す日本の文学』	単独	2023年06月	阪神近代文学 24号		阪神近代文学 24号
（論考）村上春樹と物語の現在——最新作『街とその不確かな壁』をゆっくり読む	単独	2023年10月	文学 + web版		村上春樹『街とその不確かな壁』論
（エッセイ）創作の文体、研究の文体、批評の文体	単独	2024年08月	論潮 17号		綴込み 第1面
（構成）高澤秀次「初期中上世界にみる大江症候群」	単独	2024年11月	新潮		222頁～229頁、7頁
（構成）川本直「中上健次をクエア・リーディングする」	単独	2024年11月	新潮		230頁～238頁、8頁
（インタビュー）「否」なき時代に——松本卓也・山本圭クロスインタビュー	共同	2024年11月	近代体操 2号	松田樹・武久真士・森脇透青	131頁～153頁、22頁
（論考）阿部和重の映画と陰謀	単独	2024年11月	近代体操 2号		22頁～37頁、15頁
（エッセイ）文学フリマの「シニズム」	単独	2024年12月	文フリと批評		135頁～142頁、7頁
（構成）平野啓一郎「三島由紀夫の絶望の先へ」	単独	2025年02月	新潮		8頁～15頁、7頁
〔エッセイ〕追悼すること、地図を描くこと、批評を書くこと	単独	2025年02月	新潮		230頁～231頁、1頁
（エッセイ）まぼろしの東京、まぼろしのニュータウン	単独	2025年05月	都市出版株式会社	松田樹	10頁、第一面
（書評）個人的なことは歴史的なことである——與那覇潤『江藤淳と加藤典洋戦後史を歩きなおす』	単独	2025年08月	週刊読書人		8月22日、1頁分
（書評）大杉重男『日本人の条件 東アジア的専制主義批判』	単独	2025年11月	日本近代文学		第113号、341頁、1頁分
（連載・文芸時評）第1回 言葉が氾濫している時代に自分の言葉だけが見つからない	単独	2026年01月	週刊読書人		1月9日、1頁分
（構成）川上弘美「俳句と歌仙」	単独	2026年02月	新潮、3月号		154頁～163頁、講演の構成
（構成）松家仁之「たった一人の反乱」	単独	2026年02月	新潮、3月号		142頁～153頁、講演の構成
（構成）川上弘美・松家仁之「丸谷オー、人と仕事」	単独	2026年02月	新潮、3月号		164頁～171頁、対談の構成
（連載・文芸時評）第2回 「雑」であること、繋ぐこと	単独	2026年02月	週刊読書人		2月6日、1頁分
（連載・文芸時評）第3回 文学という線 = フェンス	単独	2026年03月	週刊読書人		3月6日、1頁分

（連載・文芸時評）第4回 時計の壊れた世界で	単独	2026年04月	週刊読書人		1頁
（科研費）科学研究費助成事業 若手研究 戦後から現代に至る差別と 表現の文学史的・思想史的研究—— 中上健次を中心に	単独	2026年04月	科学研究費助成事業		2026年4月 - 2031年3月
（構成）浅田彰・千葉雅也「私とは 一個の他者である——トランプ時代 のクィア・セオリー」	単独	2026年05月	新潮、5月号		163頁～177頁、対談構成
〔連載・文芸時評〕第5回 ままならない性と生活	単独	2026年05月	週刊読書人	松田樹	1頁
第6回 「一匹」、また「一匹」と徐々に	単独	2026年06月	週刊読書人	松田樹	1頁
学会等における主な活動					
受賞					
所属学会					
2015年04月～現在	神戸大学国語国文学会			2015年04月～現在 2015年04月～現在	会員 『国文論叢』会計・編集事務担当
2016年04月～現在	阪神近代文学会			2016年04月～現在	会員
2017年04月～現在	日本文学協会			2017年04月～現在	会員
2017年04月～現在	昭和文学会			2017年04月～現在	会員
2017年04月～現在	日本近代文学会			2017年04月～現在 2022年04月～2026年03月	会員 関西支部運営委員
2023年04月～現在	表象文化論学会				
社会活動					
2021年04月01日～現在	若手研究者を中心とした文芸批評同人誌『近代体操』の運営を行う。執筆・編集・販売を同人たちみずからで行い、書店などとコラボをしながら、雑誌を出版している。				
2023年04月01日～ 2024年11月30日	出版社・人文書院にて「じんぶんのしんじん」という企画を立ち上げ、そこに編集委員の一員として参加している。 筆者をはじめとする若手批評家・研究者が主軸となり、次代の批評家をフックアップしていく企画である。 2023年4月から、人文書院のnoteで進行中。				
2026年04月01日～現在	2026年1月から、『週刊読書人』にて、文芸時評を連載。				
教育活動					
教育実践上の主な業績			年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)					
授業アンケート（小テスト）の活用とそのフィードバック			2023年04月01日～現在	授業後に簡単な匿名アンケートを行なっている。その内容は授業の理解度を図るためのものから、授業への要望あるいは近況報告など、その都度の内容に合わせて様々である。 生徒との交流を深めるだけでなく、そこで出てきた意見を次回の授業に反映させることで、相互にフィードバックが可能な授業運営を心がけている。表立っては意見を表明しにくい生徒も活字上であれば饒舌に自己表現をする場合も多く、生徒の声をできるだけ平等に授業に反映するという意味でもアンケートの取り組みは授業運営に役立っている。	
デジタル視聴覚教材の活用、および振り返り用教材の配布			2023年04月01日～現在	授業内容に関する理解を深めるために、授業ではパワーポイントや書画カメラといったデジタル視聴覚教材を活用している。また、内容に応じて、関連する内容の動画（アニメーション、作家のインタビュー、映画など）を放映できるよう自主的に準備し、単調な授業展開にならないように配慮している。 とりわけ、本学には広い分野において「表現」に関わる生徒が多く在籍していることから、さまざまな視聴覚教材を交えることで、「読み手」として作品を享受するだけでなく、時に分野を横断しながら「書き手」「クリエイター」としての立場に立って文学作品を捉えてみることを意識させている。視聴覚教材から得た気づきをレポートなどの場を通じて、書くという活字の上での営みに差し戻すことで、表現力の育成にも役立たせている。 また、パワーポイントなどのデジタル視聴覚教材はその後の配布なども容易であるため、CSやTeamsを通じて授業後に配信・配布し、振り返りのために活用させている。	

2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「表現」は教育になりうるか——創作指導と国語教育	2025年05月26日	愛知県私学国語科研究会
「書くこと」の教育的可能性——高一教材・佐藤信夫「コインは円形か」を例として	2025年06月27日	2025年度国語教員対象講演会
レトリックと異化	2026年02月08日	神戸大学附属中等教育学校 国語科授業研究会における報告。
4 その他教育活動上特記すべき事項		
5 大学運営		
図書館運営委員会	2023年04月 ~ 2026年03月	
学生生活委員会（兼学会担当）	2023年04月 ~ 現在	
ホームページ委員会 委員長（兼教員プロフィール担当）	2023年04月 ~ 現在	
FD委員	2024年04月 ~ 現在	
国際交流委員	2025年04月 ~ 現在	
Ⅴ 資格・免許、特許等		
資格・免許		
2015年03月25日	高等学校教諭一種免許状（国語）	
特許等		